

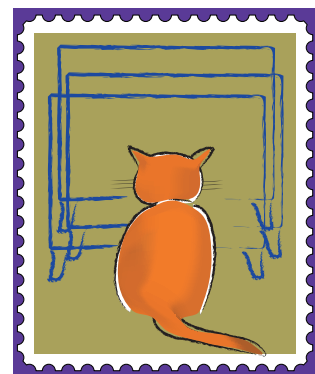
## CONTENTS

特集  
Special Features

## 社会の未来を拓くネットワーク情報共有空間

### Information Sharing Space that Opens the Future of IT Society

- 122** 編集にあたって 白鳥則郎・東野輝夫・宗森 純  
Foreword Norio SHIRATORI (Tohoku Univ.), Teruo HIGASHINO (Osaka Univ.) and Jun MUNEMORI (Wakayama Univ.)
- 123** 1. 情報共有空間における協同 岡田謙一  
Collaboration Support in the Information Sharing Space Kenichi OKADA (Keio Univ.)
- 128** 2. 情報共有空間のためのウェアラブルコンピューティング 塚本昌彦  
Wearable Computing for Information Sharing Space Masahiko TSUKAMOTO (Kobe Univ.)
- 135** 3. 情報共有空間のためのセンサコンピューティング 水野忠則・峰野博史  
Sensor Computing for Information Sharing Space Tadanori MIZUNO and Hiroshi MINENO (Shizuoka Univ.)
- 142** 4. 情報共有空間のためのシームレスコンピューティング 北須賀輝明・福田 晃  
Seamless Computing for Information Sharing Space Teruaki KITASUKA and Akira FUKUDA (Kyushu Univ.)
- 148** 5. 情報共有空間としての新しいWebの胎動 富樫 敦  
A New Movement of a Web as Information Sharing Space Atsushi TOGASHI (Miyagi Univ.)
- 154** 6. 情報共有空間のためのモバイルアドホックネットワーク 高橋 修  
Mobile Ad hoc Networking for Information Sharing Space Osamu TAKAHASHI (Future Univ.-Hakodate)

解説  
Articles

- 160** センサはWebを超える 省力化から知覚化へ 矢野和男  
Sensors Go Beyond Web: From Labor Saving to Perception Making Kazuo YANO (Hitachi, Ltd.)
- 171** 製品間を横断したソフトウェア共通化技術 ～ソフトウェアプロダクトラインの最新動向～  
吉村健太郎  
Software Reuse Across a Product Line - Software Product Line Engineering - Kentaro YOSHIMURA (Hitachi Europe)

- 177 「情報学を創る」— 科研プロジェクトがめざしたもの コンテンツの生産・活用に関する研究 — 科研「情報学」プロジェクトのコンテンツ研究を振り返って—** 安達 淳・喜連川優・中川裕志  
 Creating Informatics - What the KAKEN Project is Aming at : Research on Utilization of Digital Contents - Looking Back on the Research Activities of the Kaken Project - Jun ADACHI (National Institute of Informatics), Masaru KITSUREGAWA and Hiroshi NAKAGAWA (The Univ. of Tokyo)
- 184 これからの情報処理学会 IT 実務者への展開—英国学会に見る産学活動とビジョンより**  
 平川秀樹  
 Thoughts about the Future IPSJ : Expansion for IT Practitioners - From the Activities and the Vision of the British Computer Society  
 Hideki HIRAKAWA (Toshiba Europe Ltd.)
- 188 これからの情報処理学会 地方のための情報処理学会** 石田 亨  
 Thoughts about the Future IPSJ : Localization of IPSJ Toru ISHIDA (Kyoto Univ.)
- 191 グリッドとSOAからみるWebサービス標準技術 SOAの中核技術としてのBPEL入門 (1)**  
 BPELはどのようにサービスを結合するか? 丸山不二夫  
 Explanations of Web Service Standards from the Viewpoint of Grid Computing and Service Oriented Architecture : Introduction to BPEL as a Core Technology of SOA - How to Composite Services in BPEL Fujio MARUYAMA (Wakholk Univ.)

- 200 研究会千夜一夜 DPS研究会におけるDPSワークショップでの取り組み** 勝本道哲  
 1001 SIG Nights : Challenge Work at the DPS Workshop Michiaki KATSUMOTO (National Institute of Information and Communications Technology)
- 202 研究会千夜一夜 インタフェースからインタラクションへ ~ヒューマンインタフェース研究会~**  
 中小路久美代  
 1001 SIG Nights : From Interfaces to Interactions : An Overview of SIGHI Kumiyo NAKAKOJI (The Univ. of Tokyo / SRA Key Technology Lab. Inc.)
- 204 オープンソース事情 OSSを成功させるには** ひがやすを  
 Open Source Phenomena : How to Success OSS Project Yasuo HIGA (The Seasar Project)
- 206 標準化よもやま話 大学院教育における“国際標準化戦略論”** 小町祐史  
 Small Talk on Standardization : "Strategy for International Standardization" in Graduate Course of a University Yushi KOMACHI (Osaka Institute of Technology)



- 208 ソフトウェアエンジニアリング論文集 80's デマルコ・セレクション** Tom DeMarco, Timothy Lister 編著, 児玉公信 監訳, 日本技術士会プロジェクトチーム「IT21の会」訳, (株) 翔泳社

- 211 名誉会員 喜安善市博士を偲ぶ** 戸田 巖

- |                             |                            |
|-----------------------------|----------------------------|
| <b>210</b> 平成19年度モニタ募集のお知らせ | <b>222</b> 有料会告について        |
| <b>214</b> 会員の広場            | <b>223</b> アンケート用紙         |
| <b>216</b> IPSJカレンダー        | <b>224</b> 編集室/次号予定目次      |
| <b>218</b> 人材募集             | <b>225</b> 掲載広告カタログ・資料請求用紙 |
| <b>221</b> 有料会告             | <b>226</b> 賛助会員のご紹介        |



ホーガン, J. P. の「仮想空間計画」や「星を継ぐもの」には、ワイヤーにつながれた人々のバーチャルリアリティ世界が描かれている。20年前のSFといえばそれまでだが、現代ではもっと現実的に、生身の人間をサイバー世界にいざなう方向での研究と開発とが進められているようだ。その構成要素は、柔軟で動的な接続を可能とするネットワーク、装置そのものの進歩も含めたユーザインタフェース、そしてさまざまな水準と構造のデータのやりとりである。近頃ではこれらの分野での成果が洪水のように世に出され続けている。そして、ある意味では当然の流れとして、これらの分野を横断的に、というか総合的に扱って、さらに新しいものを生み出そうという活動が盛んである。

今月号の特集は「社会の未来を拓くネットワーク情報共有空間」。白鳥則郎、東野輝夫、宗森純がエディタ。昔風に言えばComputer Supported Cooperative Work (CSCW) の世界を、質、量、そして範囲ともに大幅に広げることを目指している(ように思える)。部屋に集まってやるミーティングと同じ質のコミュニケーションをネットワーク越しの環境でやろうというわけだ。キーワードは“情報共有空間”で、その中での共同作業のための要求仕様、身体装着型のデバイス、センサなどがベースの話。共有している相手にこちらの様子を“気づかせる”という要素が重要らしい。物理的インタフェースの話ばかりでなく、シームレスコンピューティングやWeb2.0などの話もある。

「センサはWebを超える 省力化から知覚化へ」(矢野和男)も、環境把握に重要なセンサ群の扱いの話。“人類にカンブリア紀を”と「ライフ顕微鏡」の話が興味深い。

「製品間を横断したソフトウェア共通化技術 ～ソフトウェアプロダクトラインの最新動向～」(吉村健太郎)は、主に組み込みシステムの開発コストを下げるための、継続的再利用のフレームワーク。すぐに100万ステップを超えてしまう多品種向けのソフト作成が対象。

シリーズ“これからの情報処理学会”の今月分は、「IT実務者への展開—英国学会に見る産学活動とビジョンより」(平川秀樹)と「地方のための情報処理学会」(石田亨)。それぞれの立場から面白い主張をいただいた。

「コンテンツの生産・活用に関する研究」(安達淳、喜連川優、中川裕志)は科学研究費プロジェクトの“情報学を創る—科研プロジェクトがめざしたもの”の内容紹介の第2弾。

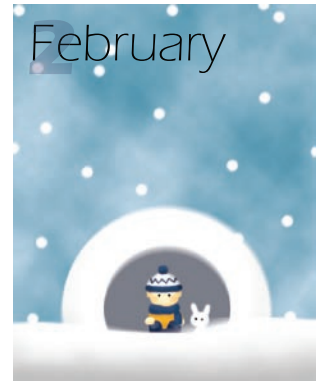
「SOAの中核技術としてのBPEL入門(1) BPELはどのようにサービスを結合するか?」(丸山不二夫)は“グリッドとSOAからみるWebサービス標準技術”のシリーズ。BPELは複数のWebサービスを統合するための標準言語。

「OSSを成功させるには」(ひがやすを)は“オープンソース事情”のシリーズ。

「大学院教育における“国際標準化戦略論”」(小町祐史)は“標準化よもやま話”のシリーズで、同名の科目を担当している途中経過の経験談。

研究会の活動については、「DPS研究会におけるDPSワークショップでの取り組み」(勝本道哲)と「インタフェースからインタラクションへ ～ヒューマンインタフェース研究会～」(中小路久美代)とがある。それぞれの研究会の個性が見えて楽しい。

「名誉会員 喜安善市博士を偲ぶ」として戸田巖氏に追悼記事をお願いした。多方面に活躍された偉人がまたお一人逝かれた。あと書評として「ソフトウェアエンジニアリング論文集80's デマルコ・セレクション」(大野晋)がある。(Kuwm)



会誌編集委員会

編集長

川合 慧

担当理事

石田 亨

長谷川 亨

本号エディタ

安達 淳

天野 真家

大谷 真

小川 秀人

片山 博

兼宗 進

木戸 彰夫

久門 耕一

坂井 修一

白木 善尚

白鳥 則郎

田中 哲朗

田中 穂積

土井美和子

東野 輝夫

比屋根一雄

前田 英作

間瀬 久雄

三浦健次郎

宗森 純

安信千津子

編集スタッフ

後路 啓子

町田 善江

綿谷 亜樹